

雜草一束

国枝史郎

青空文庫

「探偵趣味」へも御無沙汰致しました。同人の列につらなり乍らながこう御無沙汰をしては申もうしわけありません。そこで雑然たることでも書いて見ることにいたします。

支那の秘密結社

支那の秘密結社といえば「白蓮会」「三合会」「哥老会」の三つを先まず思い出します。この中白蓮会からは分派として一時「大刀会」「小刀会」「在理教」等の会が出来、その流れが馬賊になったということです。有名な義和団もこの白蓮会の支流の筈です。その起源は非常に遠くて、北胡の侵入時代だと云いますが、ハッキリ白蓮会の名を、世間へ印象させたのは元の順帝の至平十年で、韓山童という人物だそうです。俺は弥勒仏の産れ変わりだと称して愚夫愚婦をまどわしたそうであります。

次に起こったのが「三合会」で、「清水会」「双力会」などという支流があります。その成立は康熙十三年だそうです。有名な長髪賊の中にも三合会の会員は多数加わって居りまして一大勢力となっていた筈です。三合会の会員全部が是これに加わる筈になっていたそう

ですが、長髪賊の洪秀全の持っている教理と三合会の教理とが相反していたため其事そのが行われなかったそうです。もし三合会会員全部が加わっていたら長髪賊の勢力はもつと大きくなっていたことと思われます。

次に起こったのが哥老会で、その起源は乾隆年間であり、盛んになったのは同治年間でその盛んになった原因が一寸面白ちよつといのです。と云うのは長髪賊を平げた湘勇の子弟が、戦終わるや衣食に窮して、各自団隊を作りましたが、これが哥老会に合したため盛んになったというのです。長髪賊の中には三合会員があり、それを亡ほろぼした連中が似たような秘密社の哥老会に入会したという訳です。そうして三合会と哥老会とは非常に親しいというわけです。

哥老会に就ついて思い出すのは釈元恭という日本の僧侶のことです。

私の少年時代——小学校時代ですが、この釈元恭という名は一時随分耳にしました。それは日本の僧侶であり乍ら支那の哥老会の一大勢力家であったからです。その当時の単行本に「釈元恭」というものがありました。むずかしい漢文崩しの文章で書いた元恭の伝記でありましたが、私は解らないなりに愛読した記憶があります。その当時の書籍の一体裁として綴じるのに絹糸を以てする綴じり方の本がありましたがその「釈元恭」なる本もそう

いう体裁を持っていました。内容は大方忘れてしまいましたが、たしか日本人で、柔術が上手で、支那の拳法以上に支那に於て有効視されて居ることだの、その柔術を使って支那官憲の包圍を遁がれたというようなことが書かれてあつたことぐらいを覚えて居ります。それより何よりハツキリは覚えているのはその本の口絵でした。墨染の法衣を着て鉄のシヤク杖を突いて、岩角に立っている姿で、その法衣の袖が背後の方へ翻っていたのが今に眼底にありあり残っています。

私ばかりで無く私ぐらいの年格好の人の中にはこの「釈元恭」という本を読んだ人も多かろうと思います。その後私はこの本を手に入れようとして古本屋だの図書館だのを探しましたが有りませんでした。一時少年の血を湧かせた此種の本も時代には勝てず消滅して了つたものと思われまます。

花言葉と切手のはり方

欧米には花言葉というものがあつて、某の花と某の花とを一緒に送くれば「あなたを愛する」という意味になり某の花と某の花とを一緒に送くれば「私を愛して下さい」という

意味になるとか、その他花と花との組み合わせによつて自分の意志を先方に伝えることが出来るようになっていくそうですね。それと同じ意味に於て、郵便切手の張り方によつて同じく自分の意志を先方へ伝えることが出来るようになっていくことを聞いたことがあります。即ち斜めに張ればどういふ意味になるとか、逆サに張ればどういふ意味になるとか、二枚張ればどういふ意味になるとか、三枚張ればどういふ意味になるとか、その二枚なり三枚なりを斜に張つたり逆に張つたり、いろいろさまざまの張り方によつて自由自在に自の意志を先方へ伝えることが出来るのだそうです。これなど旨く取りあつかえば一寸氣の利いた獵奇的乃至探偵的の物語が作れるように思われます。

私が大阪に居りました頃一友人がそれに就てこんなことを話してくれたことがあります。「或る女から手紙が来るのだ、ところがその切手の張り方がいつもいつも変なのだ、正式に張つてあることが無いので、逆サに張つてあつたり斜めに張つてあつたりしているのさ。五本や十本の中には、ただそそっかしい女だらうと思つていたがあんまり夫れが長くづくので不思議に思つて女に訊ねて見たら女は話せないわというような顔をし乍らも赤面して、それつきり手紙をよこさなくなつたので一層不思議に思つて或る人に話したらその人は夫れは恐らく切手の張り方で君に恋の告白か恋の誘惑をしたのだらう、欧米にはあるよ

と教えられたが恐らく然うそだつたらう。そういうことを知っていなかつたので僕は遂ついに恋を釣り損なつたよ」

これなど扱い方によつて気の利いた作になると思います。この反対を書いても気の利いたものが出来そうです。

煙草の喫み方

メキシコ(?)の若い男女の間では煙草の喫のみ方によつて意志を伝え合うことが行われているという事です。巻煙草を人差指と中指とで支えて真直まっすぐに喫めばどうか、左に傾ければどうか、右へ傾ければどうか、上へ傾ければどうか、下へ傾ければどうかというのだそうです。(葉巻の場合にはそれがどういふように変化するか、そういう事も定められてあるのだそうです)。又、母おやゆび指と人差指で支えて、そうして左右上下に喫うことによつて意味が違い、又喫つた煙の吐き出し方によつて(即ち、一息に全部を吐き出すとか、三口に吐き出すとか、最初の吐きを長く吐いて、その後を短く切つて吐き出すとか、その他あらゆる変化ある吐き方によつて、自分の意志を相手の者へ伝

えるのだそうです)。本来これは同国の秘密結社で行われていた暗号であつたのが、いつの間にか一般に行われるようになったのだそうです。一本の煙草と、片手の指と、口とを用いて、どのような場合にでも他人へは秘密に自分の意志を思う相手へ伝えることの出来るこの方法は面白くもあれば近代的でもあるように思われます。

青空文庫情報

底本：「国枝史郎探偵小説全集 全一卷」作品社

2005（平成17）年9月15日第1刷発行

底本の親本：「探偵趣味」

1927（昭和2）年11月

初出：「探偵趣味」

1927（昭和2）年11月

入力：門田裕志

校正：北川松生

2016年3月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雑草一束

国枝史郎

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>